

平成26年度 大分県学力定着状況調査結果（中学校：英語）

1 結果のポイント

全問題数：35問（知識25問、活用10問）

- ・偏差値 49.1（知識 49.6 活用 49.1）で、昨年度 49.3（知識 46.8 活用 47.6）から 1.4 ポイント上昇した。
- ・「読むこと」「書くこと」「聞くこと」のすべての領域において、目標値を下回った。
- ・今回の調査においては、リスニング、読解、英作文における理解の能力に課題のあることがみてとれる。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

（1）「聞くこと」

選択形式のリスニング問題9問中、目標値を上回ったのはわずかに2問で、「聞くこと」に関する外国語理解の能力に課題があることがわかる。

領域別正答率

領域	正答率	目標値
	県計	
聞くこと	57.9	62.5
読むこと	55.7	56.3
書くこと	57.3	57.7

具体的には、時間割を見てあてはまる曜日を選ぶ問題や絵を見て人物が昨夜した行動を正しく述べた発話を選ぶなど、情報を正確に聞き取る力が身につけていない。

また、発話に対する受け答えでは、肯定を表す”Sure.”という表現を選ぶことができなかつたり行動した時刻を答える際の”at …”という正しい言い方がわからなかつたり、質問や依頼などを聞いて適切に応じる力が不足していることがわかる。場面や状況の設定に工夫しながら幅広く言語活動を行うことが大切である。

さらに、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る問題は、目標値を大幅下回っている。メモを取りながら聞く練習をするなどして、必要な情報を聞き取り理解できるようになることが求められる。

（2）「読むこと」

100語程度の英文を読み、その内容について答える問題は、4問中3問が目標値に達していない。50語程度の英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じる問題も目標値に達していない。読解の基本である主語・動詞（「だれが」「どうする」のか）、代名詞や指示

語の that が何を指すのかを把握しながら英文を読み進めていくトレーニングが必要である。長文の読み取りでは、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとするを正確に読み取る力が求められる。指導にあたっては、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたりするなど、正確な読み取りのための配慮が必要である。

(3) 「書くこと」

一般動詞過去の疑問文・否定文や疑問詞のある進行形の疑問文について基本的な語法の理解が不足しているなど語形・語法の定着状況に課題がある。また、場面に応じて書く英作文では、交通手段をたずねる文をつくる問題が目標値を大幅に下回っている。繰り返し指導することにより確実な定着を図らなくてはならない。なお、生徒に英語の文構造や語法を理解させるために、語の配列や修飾関係などの特徴を日本語との対比でとらえて指導を行うことも有効であると考えられる。

また、呼びかけの前では「,」で区切るなど文字や符号を識別するという最も基本的な技能の習熟にも気を配る必要がある。普段の指導の中で、文意や読み手を意識して符号を活用させる機会を増やせるとよい。

問題内容別正答率

問題の内容	正答率	目標値
	県計	
リスニング (内容理解)	65.0	70.8
リスニング (対話文の応答)	47.4	50.0
語形・語法の知識・理解	56.3	55.0
語彙の知識・理解	65.1	63.8
さまざまな英文の読み取り	60.1	58.8
長文の読み取り	50.6	55.0
単語の並べかえによる英作文	68.1	68.8
場面に応じて書く英作文	18.8	25.0
3文以上の英作文	58.2	56.7

3 指導の改善のポイント (全体を通して)

(1) 基礎的・基本的な事項を確実に定着させる工夫をする。

- 生徒の実態を把握し、個に応じた支援を充実する。
- 学習した語彙や表現を定着させるために、繰り返し使う機会を設けたり、定期的に振り返ったりするなどのスパイラル学習を行う。また、家庭学習方法を指導し、家庭においてもその日の学習内容を繰り返し学習する機会を設け、学習内容の確実な定着を図る。

(2) 単元目標を達成するための言語活動を仕組む。

- 生徒の興味・関心、ねらいに応じた題材の設定や学習者中心の活動の展開を工夫し、生徒が英

語にふれる機会を充実する。(ALT との連携)

- 4 技能を総合的に育成する指導を充実する。授業の中で必ず書く活動を位置づけることで、技能統合的な活動になる。(英文を書く活動については、学期に一度多くの時間をとるよりも、毎時間少しずつ行うほうが効果的である。)

(3) 付けたい力を明らかにして指導と評価を行う。

- 付けたい力を明確にした単元目標を設定し、ねらいを達成するための指導内容や評価の方法を工夫する。
- 単元目標、生徒の実態等を踏まえて「本時のねらい」、「学習活動」、「評価」の整合性を図った授業を展開する。
- 各授業、各単元終了後の見取りを大事にし、生徒の知識・技能の習得状況や活用状況を確認して、必要に応じて補充指導・個別指導をする。

(4) 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行う。

- 生徒が本当に言いたいこと・書きたいことを英語で表現・発表する機会を設け、学習意欲を喚起する。
- 活動の中では、表現しようとすることを個々の生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択できるように配慮する。

【参考】

観点別正答率

問題の内容	正答率	目標値
	市計	
外国語表現の能力	47.3	48.1
外国語理解の能力	56.8	60.0
言語や文化についての知識・理解	63.2	62.5

英語好きですか？

	平成25年			平成26年		
	国東市	大分県	全国	国東市	大分県	全国
英語の勉強が好き	45.5	53.1	55.9	53.0	53.7	55.9
英語の勉強がわかる	47.1	55.3	59.9	47.9	57.0	59.9